

契約

知っておきたいキリスト教のことば (66)

「契約」を意味するヘブライ語「ベリート」には、「切り刻む」という意味があります。当時、契約をするときには動物を切り刻むという習慣がありました。また「契約を切る」という言い方もあります。

旧約聖書には、契約という言葉が多く出てきます。その中には人間相互のものや王と民、また部族間のものもありますが、一番重要なのは、神さまと人との間に交わされるものです。



例えばノアの洪水の後に架けられた虹は、神さまが「人間をもう滅ぼさない」と誓った契約です。この神さまだけが誓う契約を「片務契約」といいます。またイスラエルの民と神さまとの間で交わされたシナイ契約(出エジプト 19 章)は、「双務契約」といいます。この契約は、イスラエルの民はヤハウェを神とし、神はイスラエルを守るという双方の合意によって成り立っているからです。

さて、イエス様は最後の晩餐の場面で杯を取り、「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」と言われました。イエス様の血によって、わたしたちの罪が贖われるという契約です。

このイエス様の救いの業に対して、わたしたちは応答を求められています。「イエス様を受け入れる」というわたしたちの意志がなければ、この契約は成り立ちません。つまりイエス様の十字架は、わたしたちと神さま双方が関わる双務契約なのです。

ちなみに新約聖書の「やく」は「訳」という漢字を用いませぬ。新しい(翻)訳という意味ではありません。新約とは新たな契約のこと、すなわちイエス様を通して、わたしたちと神さまとが新しい契約を結んだことを伝える書物なのです。

次回は「ゲツセマネ」です。お楽しみに。